

# ②第32軍司令部壕保存・公開

子ども生活福祉部

実施主体： 沖縄県

実施時期： 令和4年4月～令和5年3月



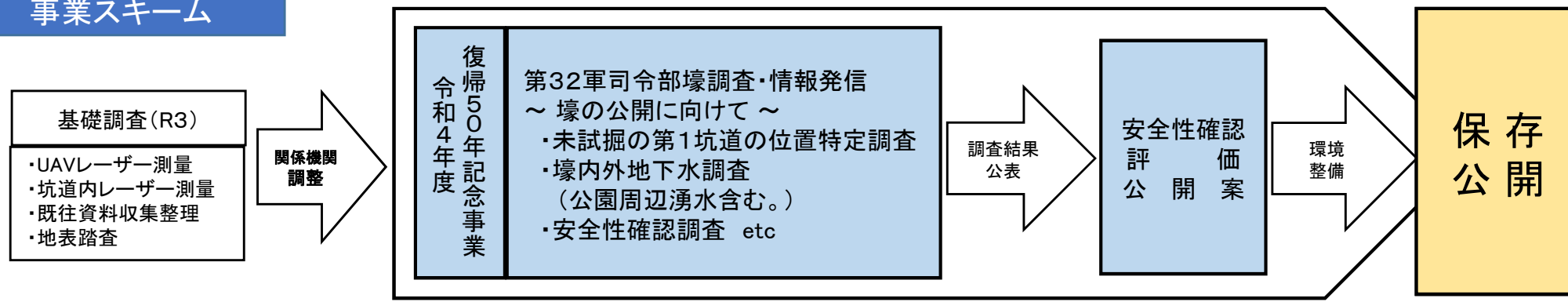
<50周年記念事業のテーマ>

- 2 事業を通して、復帰から50年間の歴史を振り返り、先人たちの労苦と知恵に学ぶとともに、誇りある豊かさに向けた展望を発信する。
- 3 事業を通して、祖先への敬意、自然への畏敬の念、他者の痛みに寄り添う肝心など、沖縄文化の魅力を共有し、恒久平和を願い、喜びを分かち合うユイマールの思いを大切にする、沖縄らしいやさしい社会の実現に向けた機運を高める。

## 事業概要

首里城公園地下に位置する第32軍司令部壕は、首里城復興とともに保存・公開が求められており、現在、専門家による検討委員会において壕のあり方について議論するとともに基礎調査を実施しているところである。復帰50周年となる令和4年度から壕内及び周辺環境調査の実施、その情報発信等を行いながら将来的な公開に向けて本格的に始動する。

## 事業スキーム



## 50周年記念事業に位置づける意義および成果

- 戦後75年以上が経過し、沖縄の本土復帰50年を迎える今日において、旧日本軍の軍事的中枢施設であった第32軍司令部壕の公開は、沖縄戦を知らない世代、米軍統治下を知らない世代など後世に平和を希求する「沖縄のこころ」の継承と恒久平和を訴えるためにも大きな意義がある。
- 壕に関する調査を実施し、その進捗や結果を県のホームページ等で情報を発信することで、復帰前の1960年代から試みられてきたが未だ実現していない壕の公開への手法の検討に活用するとともに、戦中・米軍統治下から沖縄が歩んできた歴史を学ぶ重要な戦跡であることを発信できる。

## 県民へのアピール・参画

- 第32軍司令部壕は、沖縄戦の実相を知る上での「生き証人」であり、「負の遺産」として歴史的な価値があると言われ、同壕の公開を実現することは、凄惨な沖縄戦体験者の長年の悲願である。将来的に壕の保存・公開につなげることで、復興・整備される首里城公園一帯が沖縄戦の実相・教訓を継承する場となる。
- 首里城公園一体の観光地としての魅力発信だけでなく、沖縄戦研究等が大きく進展するとともに、幅広い世代の平和学習に活用でき、沖縄戦の実相を後世に継承することができる。